

まちづくり新聞 37号

～バリアフリーアピール～

☆アピールとは☆

地域の皆さんや行政が参加して、より良いまちづくりへの想いと、取材した店舗や施設のアピールを込めたものです。

記号のご案内



自動ドア



エレベーター



車いす可能
エレベーター



エスカレーター



車いす可能
エスカレーター



駐車場



スロープ



段差



だれでもトイレ



手すり付き男子トイレ

第49回 国際福祉機器展



☆内 容☆ 展示会

・会 場 東京ビックサイト

・展示期間

2022年10月5日(水)

～10月7日(金) 10:00～17:00

・交通手段

りんかい線・JR埼京線直通国際展示場駅

ゆりかもめ・東京ビックサイト



展示場風景

第49回 国際福祉機器展 H.C.R.に行ってきました。

令和4年10月5日～7日まで、東京ビッグサイト東1～5ホールにて、第49回国際福祉機器展が行われ、私自立生活センターたいとう・まちづくり担当長澤が、自立生活センターたいとう事務局員の高橋翔太郎さんと行ってきました。

私達が行った6日は雨も降っていて、肌寒い陽気でした。コロナ鍋の影響で東ホールの1階部分で行われました。展示部数は限られ、見学人数も申し込順と制限されたそんな中で、定番の品物、電動・手動の車いす、車いすに乗ったまま乗車可能なワゴン車や、住宅の玄関のドア、浴室、ベッド等の最新器具が展示されていました。目新しい物はといえば、車いすごと覆える防寒着でしょうか？しかし担当者の方に聞きましたが、



新型の電動車椅子の展示も数多くありました。

が、秋物という事だったので、寒い時期に着ても、大した防寒対策にならないのではないのでしょうか。車いすの利用者が、よく毛布のひざ掛けをしています。私もやっていた、毛布がずり落ちてしまっ、て、車いすの前輪に引っかかり何度も危ない思いをしました。母がそれを見ていて、ナイロンのような物でフットウォーマーを作ってくれました。確かにひざ掛けの毛布のようにずり落ちる心配はなくなりました。最近では異常気象の影響で、夏は猛暑、冬も寒



次世代タイプの電動車椅子といった感じです。右の電動車椅子はスマホで操作することが出来るという事でした。

い日が続き、そんな中でも障がい者や高齢者も車いすで外出をする機会が増えてきました。そんな時のためにも簡単で雨に強く、保温機能もあり、ファッション性にも優れていて、安全な防寒着と雨具が欲しいです。1974年に全国社会福祉協議会と厚生省の共催で「社会福祉施設の近代機器展」として大手町の都立産業会館で始まりました。当時は、福祉施設職員の腰痛が問題になっていて、施設の整備の近代化や、就労支援の整備や施設入所者への安全な介護を提供する目的で開催されました。昭和61年（1986年）第13回は、欧米企業の参加を得て、第15回からH.C.R= International Home Care&RehabilitationExhibition（インターナショナル・ホームケア・アンド・リハビリテーション・エキシビション）が使用されたそうです。1995年東京国際見本市会場（通称晴海/晴海貿易センター）に会場を移し、1996年東京ビッグサイトの完成により、現在に至っています。今でこそ障がい者や、高齢者が主役のようにお客様扱いを受けるのが当然ですが、福祉機器展が始まった当時は、その当事者の世話する、親や、施設の職員が客として多かったのではないのでしょうか。そう言うより障がい者や、高齢者のような利用する当事者が来ても、対応に戸惑う業者さんも居て、それに福祉機器も種類が少なかったと思われます。その時代の日本、いや、世界は障がい者も高齢者も、養わなければ生きていけないといったイメージが強いから、そういうような妄想を抱かせたかもしれません。ただ、今は養護学校が特別支援学校となりました。養って保護の護という字が入っている、『養護』よりはいい響きかもしれませんが、ただ、特別支援学校の『特別』というのも、差別用語ではないかと思うのですがどう思いますか？人間は障がい者であろうと、健常者であろうと個人差はあるし、したがってバリア“差別”はある。言い換えれば人間はみんな特別であり、顔や、声がそっくりな人でも、体格や、性格、価値観、弱点、考え方、みんなひとりひとり違う。ただ、過信してそれに気づかない人間ほど、困難に巻き込まれた時自分を見失い、正しい判断が出来なくなるのではないのでしょうか？



この介護ベットは床すれすれまで下げる事が出来ます。



CILたいとう事務局員の高橋さんと会場に行き、それぞれ興味のあるものを見て回りました。

今回は自立生活センターたいとう活動スタッフの齋藤正直さんにバリアフリーについて記事を書いて頂きました。



東京メトロ日比谷線 仲御徒町のエレベーター

最近、バリアフリー化されて良かった事は東京メトロ日比谷線の仲御徒町の駅にエレベーターが設置された事です。

大分前にエレベーターが無いと知らずに仲御徒町で降りてエレベーターを探しても見つからず、結局移動式の階段昇降機を出してもらい凄く時間をかけて地上に出られました。

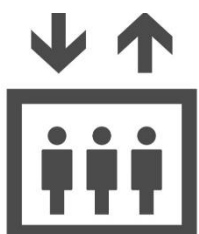
それ以来御徒町辺りに用事がある時は日比谷線上野駅で降りて、銀座線に乗り換えて上野広小路で降りていました。

上野を周り巡って御徒町についても帰るために上野に戻ったり秋葉原を散策しながら末広町を通して御徒町に着いても上野までもう一駅歩いたり、とても不便を感じていました。

ある時その日も秋葉原から御徒町まで歩いて銀座線の上野広小路のエレベーターを探して駅員に聞くと少し離れていましたが4号沿いにエレベーターが新設されていて、以来よく利用しています。この間の台東区「ふくしつながりフェスタ」もこのエレベーターを利用してスムーズにおかちまちパンダ広場に行けました。

御徒町は松坂屋や吉池などの大きいデパートもあれば多くの専門店、どらやきの美味しいうさぎややラーメン青葉や蒙古タンメン中本など有名なラーメン店がひしめくラーメン横丁などとても楽しめる町なので日比谷線を使う車イスユーザーは是非安心して立ち寄ってみてはどうでしょうか。

齋藤正直



駅に降りたらホーム上のエレベーターに乗り、一度地下に降りて改札を出たら、地上出入口用エレベーターで、5番出口に出られます。

／ 最 後 に ！

あなたにとってしあわせってなんですか？旅行をすること？おいしいものを食べに行くこと？好きなテレビや好きなスポーツを見ること？まあ、人はそれぞれ、自分にとっては、この時が一番のしあわせなんだ。そんな場面に出会った時、人に話すことによって、幸福感が倍に増すことはありませんか？

そう、喜びを誰かと共有することが、明日への活力となる事だってあります。

元巨人のピッチャー小林と江川のトレード話は、野球にあんまり興味のない私でもスッキリしなかったのを覚えています。当時作新学院の江川卓は、ノーヒットノーランを達成した名投手でした。いろいろな球団に指名されましたが、1979 年巨人軍ピッチャー小林繁と、阪神タイガースと仮契約した江川とのトレードを発表しました。江川にとっては望み通りに巨人入団を果たし、好成績をあげて名投手でしたが、本当に江川自身現役時代、幸せな選手生活を送っていたのでしょうか？マスコミに「自分が巨人に入ったことで、交換トレードで阪神に行った、小林さんに本当に悪いことをしました。」と語っていました。また、当時セントラル・リーグの試合の方がテレビ中継が多かったので、セ・リーグの球団に指名されなかったとも言っていました。その後お酒のコマーシャルで、江川は小林に謝罪しながら酒を酌み交わしていました。本当はこういう CIL たいとうとして出した新聞で、個人名や、実在の団体名などは、出さない方が好ましいのですが、江川氏があの事件を長い事引きずって、CM上としても小林氏に対して、誠意をもって謝罪した。それに対して小林氏も、江川氏をかばうように、受け止めているように私には見えて、それに感銘を受けて、実名を出しました。念願の巨人に入っても野球ファンからのバッシングや、批判も受けて江川氏にとってつらかった事もあったと思います。しかし小林氏が亡くなる前に、謝罪が出来て「幸せ」と言わないまでも、ちょっとは、心晴れやかになったのでしょうか？



新型コロナウイルスも、ようやく落ち着き初め、マスクの装着も自己判断に、委ねられました。小さい頃から私は、風邪をひいてもマスクはしたことはありません

でした。コロナが流行る 1,2 年前、通所施設でせき込んでいると、職員がマスクを、私の口につけてくれました。マスク慣れしていなかったので、息苦しさを感じました。それにマスクをしていると、言葉も聞きづらいことはありませんか？

顔も半分しか見えないし、なんとなくコミュニケーションの取りづらさを感じているのは私だけでしょうか？中にはマスクを外して顔を全部出すのが恥ずかしいという人も居ました。しかし人間同士、喜怒哀楽は素顔が見えるから感じるものだと思いますか？そんな思いから私は、日常から早く「コロナ」が無くなる事を祈っています。



この頃近所を歩いていると、「ホテル」が多く目につくようになりました。大きい建物のホテルや一般家屋のような作りのホテル。外装も大事ですが、飲食店やホテルに欠かせないのは、そう、サービスですよ。私たち障がい者はいろいろとサービスを受けることが多いですね。通所先や、家庭での生活を支えてくれるホームヘルパー。あるとあらゆるサービスがあるから、生活が、成り立っていけるのです。

そもそもサービスというのは、大正時代末期日本の自動車産業の社長が、アメリカに視察に行き、アメリカの自動車会社のサービスステーションサービスが出来ていることを知り、日本でも広めようしましたが、上手くいきませんでした。その後、日本に海外の自動車会社が日本に工場を置き操業を開始したことで日本にも「サービス」が使われたそうです。人と人との助け合いの精神が、お客様に対してのサービスであり、そのサービスを受ける私たちも、感謝する気持ちを忘れたくないですね。



私の新聞にご賛同、応援して頂ける方はご寄付金 1,000 円(年間1回程度)を長澤まで宜しくお願い致します。

また、特定非営利活動法人自立生活センターたいとうの活動にご賛同いただける方、賛助会員としてご支援をお願いしております。

正会員	年会費	5,000円
賛助会員	年会費 個人会員一口	3,000円
団体会員一口		10,000円